



大谷資料館・地下採掘場跡

日本の源流 再発見

File 31 栃木県宇都宮市

古来から脈々と受け継がれる、石の文化

栃木県宇都宮市の大谷地域は、江戸時代に始まった大谷石採掘により採石産業のまちとして発展しました。2018年には日本遺産「地下迷宮の秘密を探る旅 ～大谷石文化が息づくまち宇都宮～」に認定されました。街には大谷石を使った建物が点在し、訪れる人々を魅了しています。



「大谷石」とともに歴史を刻むまち

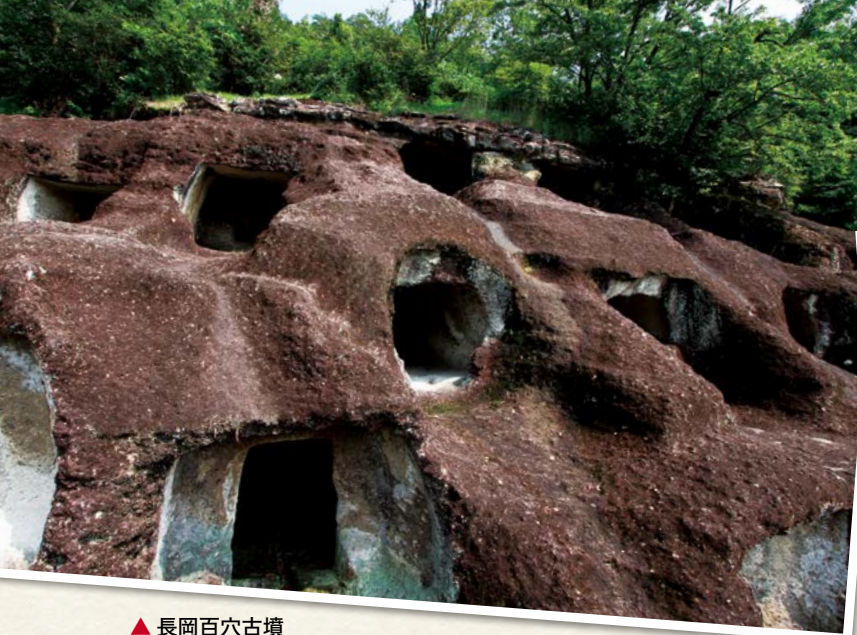
江戸時代には城下町として栄え、当時は小江戸と呼ばれるほどの繁栄を遂げた栃木県宇都宮市。市内には、宇都宮ふたあらやま二荒山神社の石垣をはじめ、教会や民家の塀に至るまで多くの場所で大谷石が使われています。

大谷石の源は、約1500～2000万年前、海底火山の噴火が産出した凝灰岩ぎょうかいがんの地層に始まります。縄文時代には岩山の洞穴を住居として利用し、古墳時代には横穴を掘って墓地にしたといわれています。

長岡町にある「長岡百穴古墳」もその1つです。主要道路の横にある52基の横穴墓群は、丘陵の斜面を利用して墓室とした横穴群。穴の直径は1mほどで、そのほとんどの奥壁には

観音像などが彫刻され、凛りんとした空気に包まれています。

大谷石の産地である大谷地区で大谷石採掘の歴史を伝えているのが「大谷資料館」です。なかでも地下採掘場跡は、1919年から大谷石を掘り出して出来上がった地下約30m、広さ約2万㎡の広大で神秘的な地下空間。巨大な壁面にはまるで年輪のように、あるいは地層のように軌跡が刻まれ、往時の記憶を今に伝えています。1960年代に機械が導入されるまで採掘は手作業で行われ、厚さ18×幅30×長さ90cmほどの石材1本を切り出すために、職人たちは約4,000回もつるはしを振るったといいます。館内には当時の採掘道具も展示されています。



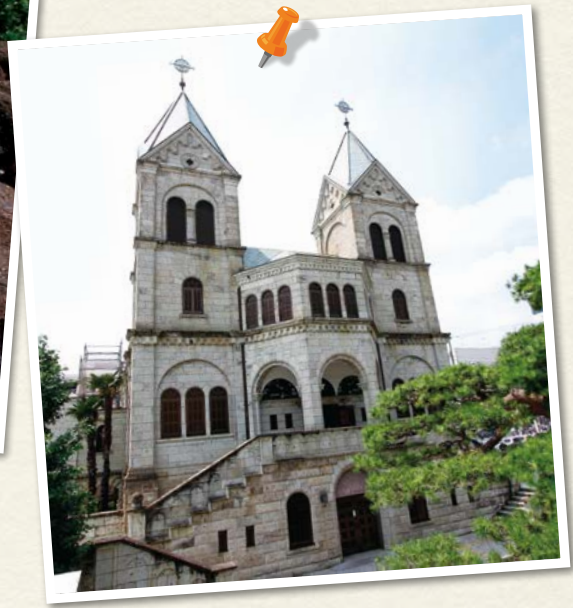
▲ 長岡百穴古墳

"長岡の百穴"とも呼ばれ、7世紀前半につくられたといわれています



▲ 宇都宮大学・フランス式庭園

1926(大正15)年秋に完成したフランス式庭園。
宇都宮市の「うつのみや百景」にも指定されています



▼ カトリック松が峰教会

大谷石造りの聖堂は、
スイス人の建築家マックス・ヒンデル氏による設計です



▲ 大谷資料館

地下探掘場跡はイベントホールやコンサートホールとしても活用されています

宇都宮市の中心部には、ロマネスク様式の装飾が施された大谷石が外壁を覆う「カトリック松が峰教会」があります。1888年に建設された、日本では数少ない双塔を持った中世期の教会建築です。教会内部にも多くの大谷石が使われており、国の登録有形文化財に指定されています。

四季の自然に彩られる庭園にも大谷石は使われています。国登録記念物(名勝地)として登録された宇都宮大学のフランス式庭園は、左右対称の幾何学模様を描くように造られ、大谷石の園路が縦横に走っています。天気の良い日には、学生たちがベンチでお弁当を広げたり、近隣の住民が散歩したり、憩いの場として多くの人に愛されています。

古いにしへより人々に親しまれ、暮らしを支えてきた大谷石。今も残る大谷石の建造物は、モダンなカフェやギャラリーとしても活用が進み、大谷石の歴史をつないでいます。

ココに注目



大谷資料館の隣に2016年オープンしたカフェ「ROCKSIDE MARKET」。人気メニューは、栃木県産のそば粉と新鮮な地元野菜や果実を使ったモチモチ食感のガレットです。大谷石のコースターなどのお土産もあります。

日立グループ事業所紹介

今回訪れた栃木県宇都宮市には日立ヘルスケアシステムズ株式会社宇都宮営業所があります。日立グループの先進技術を活用して適切な患者ケアを実現するため、ソリューションを医療機関へ幅広く提供、医療の発展と国民の健康維持・増進に貢献します。

日立ヘルスケアシステムズ株式会社 宇都宮営業所

栃木県宇都宮市馬場通り1-1-11 宇都宮TDビルディング

<http://www.hitachi-hs.co.jp/>